

じもと

HOLDINGS

じもとホールディングス
ミニディスクロージャー誌

 きらやか銀行  仙台銀行

2013.9



わたしたちは宣言します。

じもとを **本** 気で想い、
様々な事 **業** の成長を
心を込め **支** えること。
力強く応 **援** すること。

お客様の夢の実現の為に。



株式会社じもとホールディングス
取締役社長 取締役会長
粟野 学 鈴木 隆

ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、平成24年10月に株式会社きらやか銀行と株式会社仙台銀行の共同持株会社として誕生し、おかげさまで1周年を迎えることが出来ました。

この1年間は、「互いを知る、互いを統一する、そして創造する」をテーマに掲げ、グループ経営計画をスタートし、両行の本部組織や会議体を統一、さらには合同支店長会議で相互理解を深めるなど、じもとグループとしての一体性と結束力を高めてまいりました。

特にグループ共通の営業戦略である「本業支援」については、両行が、人材育成や組織づくり、お客さまへの訪問活動を活発に行い、ビジネスマッチングや協調融資等を通じてお客さまの事業成長を支援してまいりました。

本誌では平成25年9月期のグループ業績とともに、この「本業支援」の取り組み事例もご紹介しておりますので是非ご覧ください。

皆様方におかれましては、今後ともじもとグループにご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成25年11月

株式会社じもとホールディングス 取締役会長 鈴木 隆
取締役社長 栗野 学

じもとホールディングス

- 設立年月日 平成24年10月1日
- 本社所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
- 資本金 170億円
- 上場取引所 東京証券取引所

きらやか銀行

- 本店所在地 山形市旅籠町三丁目2番3号
- 電話番号 023-631-0001(代表)
- 設立年月日 平成19年5月7日
- 資本金 227億円
- 預金・譲渡性預金 13,050億円
- 貸出金 9,226億円
- 従業員数 972名
- 店舗数 117カ店(県内99カ店、県外18カ店)(注)
- ホームページ <http://www.kirayaka.co.jp/>

(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実質店舗数は80カ店(うち出張所3カ店)(県内63カ店、県外17カ店)、インターネット支店を除く。

仙台銀行

- 本店所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
- 電話番号 022-225-8241(代表)
- 設立年月日 昭和26年5月25日
- 資本金 224億85百万円
- 預金・譲渡性預金 10,022億円
- 貸出金 5,545億円
- 従業員数 741名
- 店舗数 72カ店(注)
- ホームページ <http://www.sendaibank.co.jp/>

(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実質店舗数は60カ店(うち出張所4カ店)。

(平成25年9月30日現在)

じもとグループの経営計画

じもとグループの中長期的な戦略展開

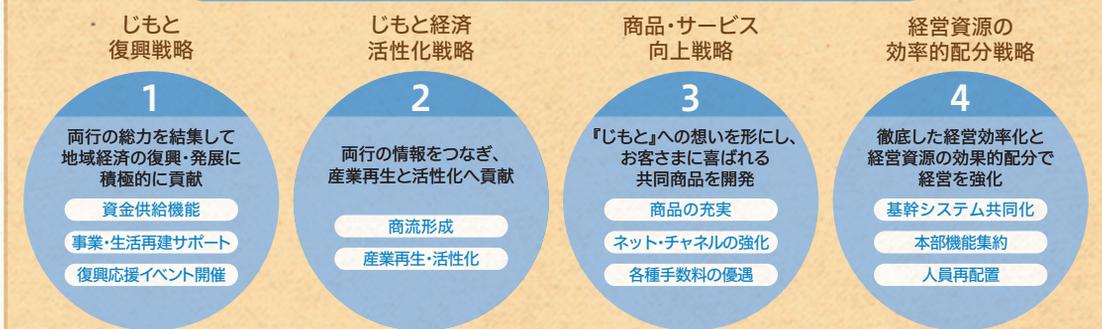
中小企業の皆様のためにできること = **【本業支援】**を両行で展開

じもとグループは、人材育成や組織づくりを計画的に進め、宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぎ、中小企業のお客さまへの「本業支援」を中長期的に展開してまいります。

お客さまの経営課題を徹底的にお聴きし、グループをあげて課題解決に向けて取り組み、復興支援やビジネスマッチング等を通じ、地域経済の復興と発展に貢献する方針です。



じもとグループのじもとを元気にする4つの戦略



じもとグループが取り組む“本業支援”

voice

お客様の想いを共に語り合い、形にしたい

「お客さまとの会話が楽しい」、これが本業支援の原点であり、始まりです。

お話をお聴きし共に語り合い、想い、悩みを同じ目線で一緒になり真剣に考える。その後、お客さまの課題や問題点を、じもとグループと一緒に考え、問題解決のためにお手伝いしております。

私たちはこれからもお客さまと共に成長し続けます。



きらやか銀行
寒河江支店
寒河江 慎一 課長

voice

お客様の声を聴く、それが「本業支援」

私の担当は、津波被災地の多賀城市や塩釜市。被災したお客さまを毎日訪問し、お客さまの復興をサポートすることが私の仕事です。

心掛けていることは、お客さまに何度も足を運び、お話をしっかりお聴きすること。不安や課題を理解し、微力ながらその解決を一生懸命お手伝いすることです。これこそが私にできる「本業支援」。日々頑張っています。



仙台銀行
地元企業応援部推進室
廣瀬 あゆみ 室長代理

voice

お客様のために私にできること

「何か人の役に立てる仕事がしたい」、これは私が銀行員になろうと思った一番の理由です。この気持ちを一番反映させられるのが、当行の「本業支援」です。

今後も本業支援を通してお客さまの視点に立ち、経営課題の解決に向けて行動すると共に、本業支援を通じた復興支援にも尽力してまいります。



きらやか銀行
弓の町支店
工藤 俊幸 主任

voice

新たな地域産業の成長を全力で支援

岩沼市は、震災津波で壊滅的な被害を受けました。私は、中小企業のお客さまの復興への思いに応えるため、常に「本気」と「情熱」を持って本業支援に取り組んでいます。

特に農業経営アドバイザー資格を活かした第1次産業支援や太陽光発電等の再生可能エネルギー分野への支援を通じ、震災後の新たな地域産業の成長を全力で支えていきます。



仙台銀行
岩沼支店
武田 信 主任
(農業経営アドバイザー)

震災を乗り越えた宮城の水産加工品を販売 「みやぎ復興感謝祭海の市」を開催

きらやか銀行と仙台銀行は、東日本大震災の復興支援のため、平成25年10月に第2回「みやぎ復興感謝祭海の市in山形」を開催しました。本イベントには、宮城県沿岸部から、津波被害を受けた仙台銀行取引先の水産加工業5社が参加しました。

当日は、先着100名にかき汁が無料配布されたほか、めかぶ・しめさば・たらこ等の水産加工品が即売され、震災を乗り越えた宮城の「海の幸」の魅力を集めた大勢の山形市民にアピールしました。



みやぎ復興感謝祭海の市の様子

じもとホールディングス設立1周年記念 「じもとからのありがとう」キャンペーン

きらやか銀行と仙台銀行は、じもとホールディングス設立1周年を記念し、平成25年10月から「じもとからのありがとう」キャンペーンを開催しております。

キャンペーン期間中、所定のお取引をいただいたお客さまに、宮城・山形の特産品やオリジナルグッズをプレゼントしております。

「じもとからのありがとう」キャンペーン

【第1弾】じもと感謝祭

平成25年10月1日～12月30日

【第2弾】じもと・じまんキャンペーンPart2

平成25年11月18日～平成26年1月31日

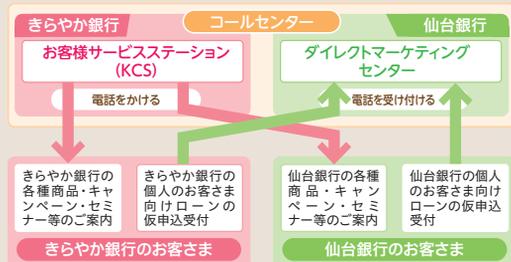
【第3弾】はじめよう！NISAキャンペーン

平成26年1月6日～3月31日



両行コールセンターの相互利用を開始 ローンご案内や申込受付がますます充実

きらやか銀行と仙台銀行は、平成25年7月から、銀行代理業制度を活用し、両行コールセンターの相互利用を開始しました。これによりコールセンターでは、両行のお客さまへローンのご案内を行うほか、電話・FAXでのローン申込の受付が可能となり、お客さまの利便性がますます充実しました。



じもとホールディングス設立1周年記念 両行女性行員の制服を新調・統一

きらやか銀行と仙台銀行は、じもとホールディングス設立1周年を記念し、平成25年10月に、両行女性行員の制服を新調・統一しました。

製作にあたっては、東北芸術工科大学・中山ダイスケ教授（じもとホールディングスの名称・ロゴ選定をご担当）の監修のもと、両行のコーポレートカラーであるピンクとグリーンをスカーフに使用するなど、温かみと落ち着きのあるデザインを採用しました。



左：きらやか銀行／右：仙台銀行

じもとホールディングス連結業績

(単位:百万円)

	25年9月期
経常収益	21,130
経常利益	3,197
中間純利益	3,153

平成25年9月期の連結業績は、経常収益が211億30百万円、経常利益が31億97百万円、中間純利益は31億53百万円となりました。

きらやか銀行・仙台銀行(単体)の2行合算

(単位:百万円)

	2行合算		
	24年9月期	25年9月期	前年同期比
経常収益	22,120	21,073	△1,047
業務粗利益	16,591	16,366	△225
経費(除く臨時処理分)	12,957	13,077	120
業務純益	3,689	3,494	△194
コア業務純益	3,330	3,378	48
経常利益	2,739	3,422	682
中間純利益	2,700	3,251	551
貸出金	1,451,204	1,477,267	26,063
預金等(譲渡性預金を含む)	2,162,018	2,307,231	145,212
有価証券	635,948	716,987	81,038

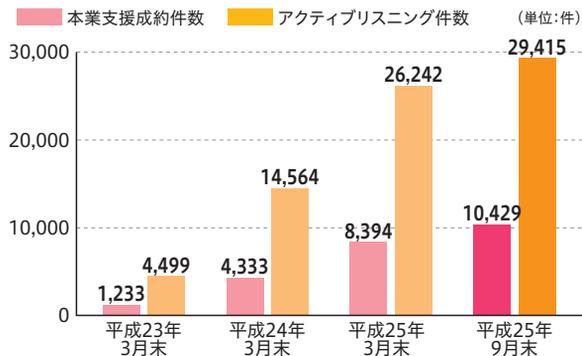
2行合算の経常収益は、前年同期比10億47百万円減少の210億73百万円となりました。

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益や役務取引等利益の増加等により、前年同期比48百万円増加の33億78百万円となりました。

経常利益は前年同期比6億82百万円増加の34億22百万円、中間純利益は前年同期比5億51百万円増加の32億51百万円となりました。

きらやか銀行の本業支援

●本業支援成約件数・アクティブリスニング件数累計



当行では、「本業支援」の本質は、経営者の方から、アクティブリスニング(企業の問題点・課題・悩みをお聴きし共有する活動)を通してお聴きした事業ニーズを一緒に考え解決することで、お客さまに喜んでいただくことにあると考えております。このアクティブリスニングによる本業支援は、じもとグループとして当行及び仙台銀行が長期的戦略として、全行員が組織的かつ継続的に取り組んでおります。

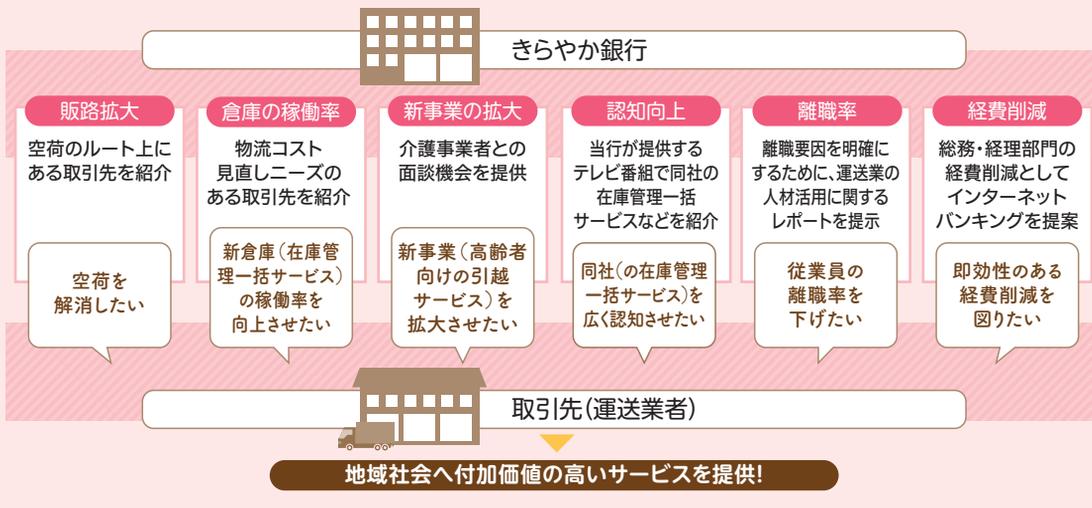
取り組み事例 ①

運送業者への本業支援

◎アクティブリスニングによる運送業者の事業ニーズ(経営課題)の把握



◎本部と連携しながら組織的に本業支援を実践



取り組み事例②

想いと共に、生きていく。

当行の営業基盤である山形県内の高齢化率は、全国的にも非常に高いのが現状です。このような環境の下、私の担当するエリアには、高まる介護需要と地域の未来に正面から向き合う人達がいます。

「この地域に200人の雇用を生み出したことが自分の誇り」と会話の中で担当する介護施設の代表者が私に語った時、「介護を通じて地域の未来を守りたい。お客さまの強い想いと共に生きていきたい。」と私は心から思いました。そして、この企業に対し、「私は何が出来るのだろう。」と真剣に考えました。ここから私たちきらやか銀行の本業支援が始まります。

お客さまの想いを聴かせてください。夢を語ってください。そして、実現するお手伝いを一緒にさせていただきます。

私はこれからも地域の夢を受け、共に追いかける銀行員を目指してまいります。

平成25年10月 卸町ふれあい市
きらやか横丁でお客さまと共に



プロフィール

きらやか銀行 長井支店
黒澤 豊和 主任
法人兼個人渉外担当
(医療経営士・FP1級)

趣味はサイクリング。特技は剣道(3段)。培った意思の強さと行動力は仕事の源です。



長井市内に複数の介護施設を展開する長井弘徳会(介護福祉事業者)様は、今後の超高齢社会を見据えて、介護サービスのさらなる強化を図るための設備投資を計画。物件購入等に関する事業計画の実現を支援しました。



社会福祉法人 長井弘徳会
太田 慎一 理事長
(介護福祉事業者)

喜びの声 幣法人は高齢者介護を中心とした事業を行っており、従来型企業と異なり、単なる売上高や利益率で企業評価をすることができない会社です。高齢者介護予防事業をはじめ、在宅サービスや施設系サービスなど地域と密着した「トータルサービス」を形成し、地元企業と連携しながら人材確保を行っております。

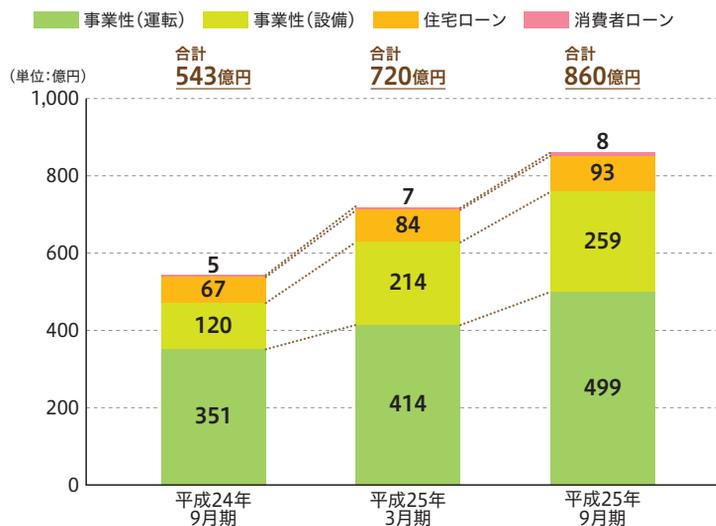
その中で、きらやか銀行は適宜なるサポートをしていただき、また、担当である黒澤さんは、幣法人のサービスの流れや医療介護分野における理解度が高く、適切なアドバイスや資金提供を行っていただきました。

今後も社会の発展と共に知恵を提供していただき、お互いが仕事のやりがいを見出すことで共に発展すると確信しております。



仙台銀行の本業支援

●被災者向け新規融資実行額累計



当行は、東日本大震災の発生直後から、被災されたお取引先の早期復興に向けて、様々な資金需要に積極的に取り組んでいます。平成25年9月末までの被災者向け新規融資実行額は3,403件860億円となりました。

また、中小企業診断士や不動産鑑定士、農業経営アドバイザー等が、多様な復興ニーズを踏まえ、きらやか銀行とも連携し、協調融資やDDS（既存債務の劣後ローン転換）等の資金支援、二重ローンご相談、アグリビジネス支援等に取り組んでおります。

取り組み事例①

売電債権を担保にメガソーラー設備導入を支援

宮城県では、エネルギー供給環境の変化に伴い、再生可能エネルギーへの関心が高まっております。

こうした中、株式会社RSテクノロジーズ・三本木工場（宮城県大崎市）では、再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用したメガソーラー設備導入と太陽光発電事業への参入を検討しておりました。

当行古川支店と地元企業応援部は、同工場の屋根設置型メガソーラー導入計画の相談を受け、宮城県信用保証協会と連携し、売電債権を担保にする手法で設備資金をご融資しました。

当社では、今回の太陽光発電事業への参入により、省エネルギー化を実現するとともに、震災後の新たなエコビジネスに取り組むことが可能となりました。



【本計画の事業概要】

設置場所：宮城県大崎市三本木
（当社三本木工場の屋根）

発電出力：1,018.71Kw

※宮城県内屋根設置型メガソーラーとして最大級の発電量

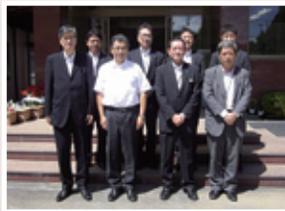
取り組み事例 ②

本業支援を通じて被災地金融機関として早期復興に取り組む

私が本業支援に取り組むうえで心がけていることは、常にお客さまの立場に立ち、コミュニケーションを図りながら丁寧にお客さまの声を聴くことです。

きらやか銀行と経営統合したことで、互いの情報を共有し、協調融資やビジネスマッチングなども視野に入れた、より質の高い提案をすることが可能になりました。

仙台銀行だからできること。仙台銀行だから分かる想い。私は、被災地の復旧・復興が本格化している今だからこそ、より多くの声を聴き、人（お客さま）=企業とのつながりを大切に、日々、本業支援に取り組んでまいります。



作業員寄宿舎を建築
(平成25年8月に完成)



プロフィール

仙台銀行 津谷支店兼歌津支店
櫻井 裕行 主任
法人・個人渉外担当

町のおすすめスポット「田東山」
南三陸町歌津地区西部に位置する田東山。5月になると、約5万本のツツジが咲きほこり、一面が朱色に染まります。



震災被災地・南三陸町歌津地区に本社を置く株式会社阿部伊組（総合建設業者）様は、復興工事に従事する作業員の宿泊先（寄宿舎）の建設を計画。被災地では、作業員の宿舎の確保が、復旧作業を進めるうえでの重要な課題となっていたことから、仙台銀行ときらやか銀行は建設資金を協調融資で支援しました。



株式会社阿部伊組
阿部 隆 代表取締役
(総合建設業者)

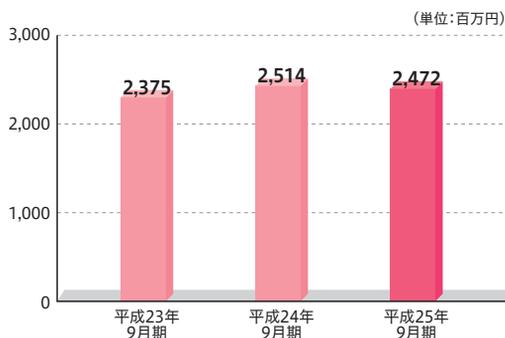
喜びの声 震災復興に向けた受注工事の増加に伴い、地区外・県外の下請業者との連携の強化及び作業員の増員確保が必要と考え、当初は地元建設業者で建設組合を設立し、保証事業制度を活用した従業員用寄宿舎の建設を考案していました。しかし、建設組合としての制度活用に弊害が生じたことから弊社単独による建設を計画しました。

仙台銀行は、震災後、宮城の震災復興のために復興支援専門部署「地元企業応援部」を新設し、その担当者から様々な情報やアドバイスを受けていたこともあり、早速、仙台銀行歌津支店に資金調達の相談をしました。また、きらやか銀行と経営統合したことで、営業基盤や資金供給機能が強化され、地元金融機関に協力していただいたこと心から感謝しております。

業績ハイライト(単体)

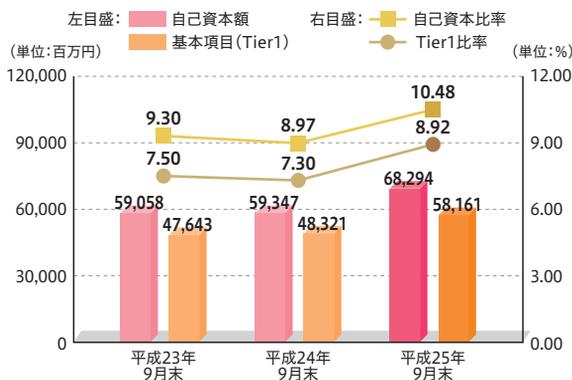
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、役務取引等利益が増加し、物件費は減少したものの、資金利益が減少したことなどから、前年同期比42百万円減少の24億72百万円(増減率△1.6%)となりました。



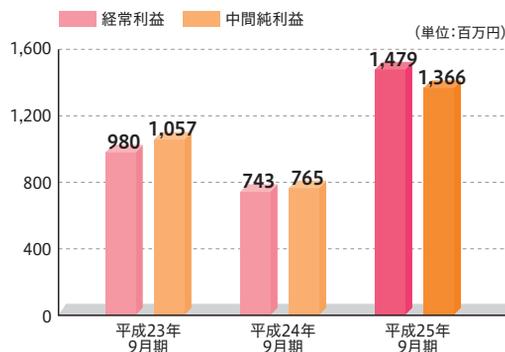
自己資本比率の状況

単体自己資本比率は、リスクアセットが減少したことや、平成24年12月に震災特例の金融機能強化法に基づく資本増強を実施したことなどから、平成24年9月末比1.51ポイント上昇の10.48%となりました。



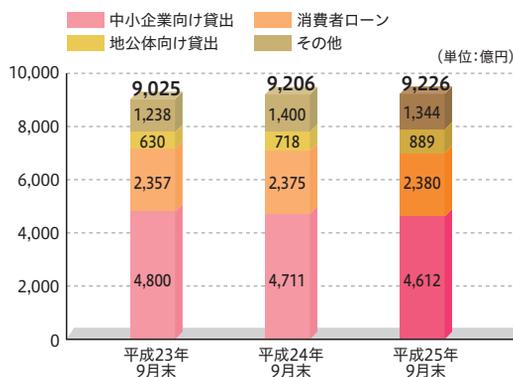
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は、前年同期比7億35百万円増加の14億79百万円、中間純利益は、前年同期比6億1百万円増加の13億66百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、中小企業向け貸出が減少したものの、地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成24年9月末比20億87百万円増加の9,226億88百万円となりました。

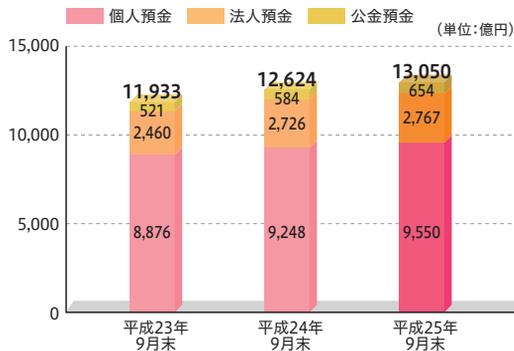


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

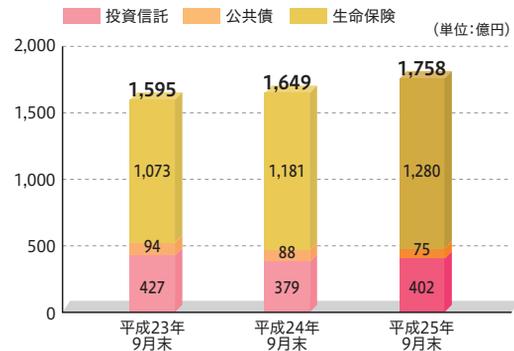
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、両行合同で実施したキャンペーン預金への預入増加などにより個人預金が増加したほか、法人預金及び公金預金も増加したことから、平成24年9月末比425億95百万円増加の1兆3,050億7百万円となりました。



預かり資産の状況

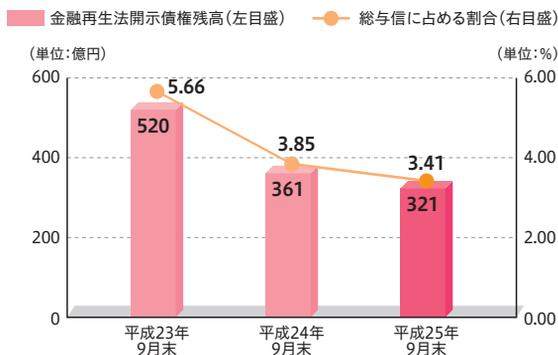
預かり資産残高は、安定志向にあるお客さまニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成24年9月末比109億37百万円増加の1,758億87百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成24年9月末比39億54百万円減少の321億78百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成24年9月末比0.44ポイント低下の3.41%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



当行は、平成23年2月、取引先企業再生支援のためのコンサルティング機能の発揮及び強化を目指し、完全子会社となるきらやかターンアラウンド・パートナーズ株式会社を設立、平成24年5月、当行が所管する貸出債権125億59百万円を会社分割により承継いたしました。

平成25年9月末現在における同社との連結開示債権残高は、362億94百万円で、開示債権比率は3.83%となります。

なお、同社は、平成24年3月、日本政策投資銀行と資本及び業務提携に関する協定書を締結し、企業再生支援機能を強化するとともに人材の育成を図ることによって地域経済の活性化を目指しております。

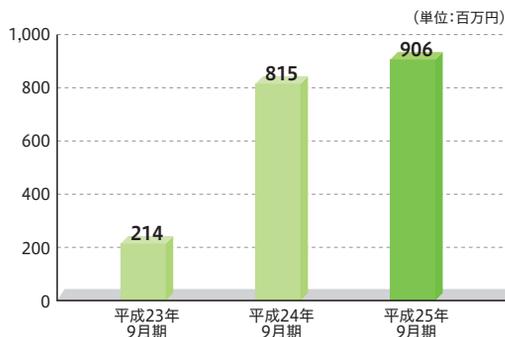
■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

業績ハイライト(単体)

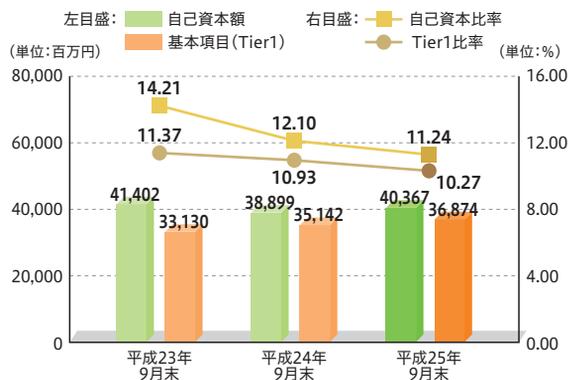
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、平成25年5月のシステム移行に伴い物件費が増加したものの、資金利益が増加したことなどから、前年同期比90百万円増加の9億6百万円(増減率11.0%)となりました。



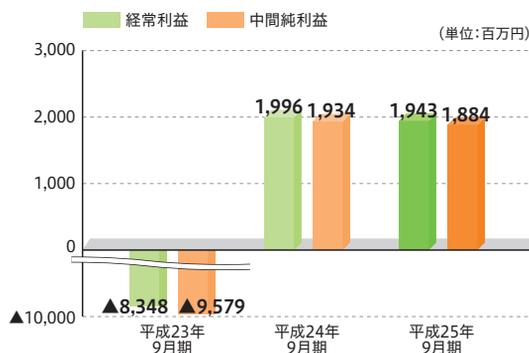
自己資本比率の状況

単体自己資本比率は、中間純利益18億84百万円の計上により自己資本額(分子)が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、平成24年9月末比0.86ポイント低下の11.24%となりました。



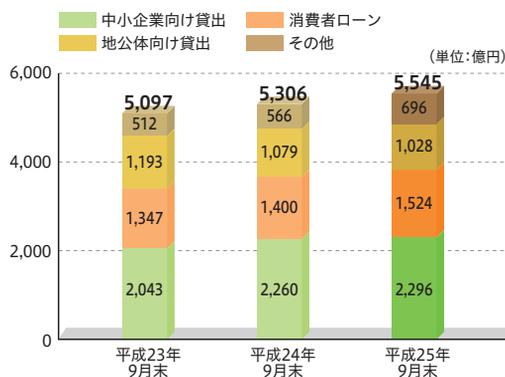
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は、前年同期比52百万円減少の19億43百万円、中間純利益は、前年同期比49百万円減少の18億84百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、震災復旧・復興に係る様々な資金需要への対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン貸出が増加したことなどから、平成24年9月末比239億75百万円増加の5,545億78百万円となりました。

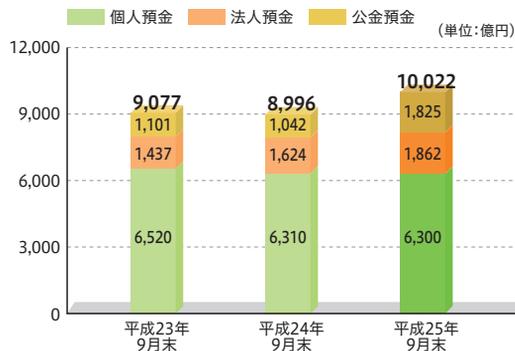


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

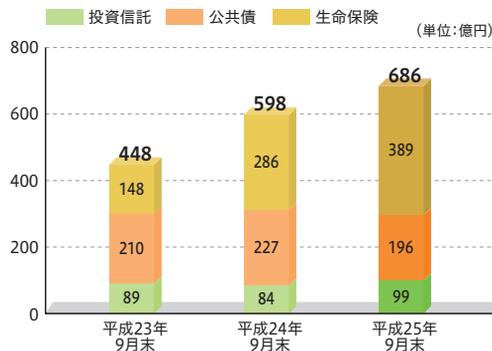
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、システム移行に伴う一部預金科目の移動により個人預金が減少したものの、法人預金や公金預金が増加したことなどから、平成24年9月末比1,026億17百万円増加の1兆22億23百万円となりました。



預かり資産の状況

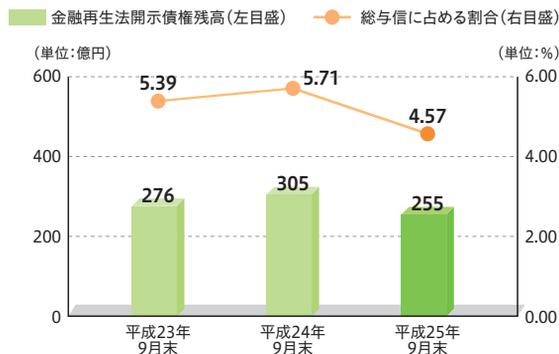
預かり資産残高は、営業店と資産運用サポートチームの販売強化により生命保険残高が増加したことなどから、平成24年9月末比87億78百万円増加の686億52百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、一部の被災企業の業況好転や約定返済などから、平成24年9月末比49億88百万円減少の255億21百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成24年9月末比1.14ポイント低下の4.57%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

株主の皆様へ

株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年といたします。
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日。
基準日	定時株主総会については、3月31日といたします。その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告といたします。 【公告掲載ホームページアドレス】 http://www.jimoto-hd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞、仙台市において発行する河北新報および山形市において発行する山形新聞に掲載して行います。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社 本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00 ~ 17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。みずほ証券で単元未満株式の買増請求手続をされる場合は、事前にみずほ信託銀行が指定する口座に送金していただく必要があります。

お問合せ先

みずほ信託銀行 株式会社

 0120-288-324

上場株式配当等の支払に関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、平成26年の確定申告の添付資料としてご使用ください。

なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、平成26年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式会社 じもとホールディングス

〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号

TEL.022-722-0011 (代表)

<http://www.jimoto-hd.co.jp/>

株式会社 きらやか銀行

〒990-8611 山形市旅籠町三丁目2番3号

TEL.023-631-0001 (代表)

<http://www.kirayaka.co.jp/>

株式会社 仙台銀行

〒980-8656 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号

TEL.022-225-8241 (代表)

<http://www.sendaibank.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

平成25年11月発行